

2 自然復旧が困難な長大斜面における緑化工に関する研究 (I)

—— 木本群落の成立過程について ——

前橋管林局 中田 博

1. はじめに

山腹工事の最終目的は崩壊地の森林化である。崩壊地の森林化は、その斜面よりの工砂生産がなくなることを意味しており、砂防工学的には工砂生産源対策の完了を示す指標となる。

近年、河川や貯水池の長期濁水化現象に伴い、wash load の生産・流出に対する研究が進められている。これは、今後の治山・砂防事業が Mass wasting のみを対象とするのではなく、たとえ生産工砂量としては少なくとも、wash load の生産源である山腹の sheet erosion をその対象とするべきことを意味しており、柔流工事のみではなく、山腹工事の完了（木本群落の成立）をもって、治山砂防工事は概成となる。

しかし、特に気象条件等のきびしい亜高山帯等に位置する長大裸地斜面の森林化は困難な場合も多く、特殊な技術が要求される。つまり、植栽工を均す、覆栽とするのではなく、施肥工・補植工等の保育工が必要であり、自己施肥性をとれた永続性のある木本群落の成立を均す、覆栽とするべきである。本研究は、このような場における緑化工・保育工についての検討を目的としている。

2. 既施工地における木本群落の成立事例について

亜高山帯等では施工後数年経過しても木本群落が成立しない場合も多い。しかし、場所によっては10年のオーダーで観察すると木本群落が成立する場合がしばしば認められる。

2.1 仮説

木本群落の成立過程を観察していると次のような仮説が立てられようである。

「おおむね安定した長大斜面では、比較的工後・気象等諸条件の良い下部崖錯部等より木本植生が群落を形成しはじめ、次第に斜面を上昇し、全体が森林化する。」

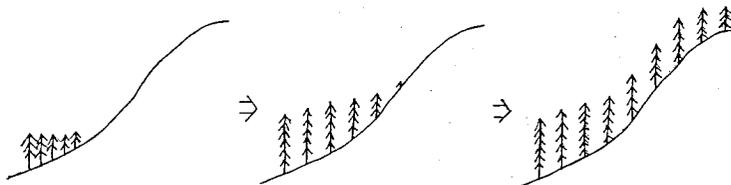


図-1 長大斜面の森林化過程の仮説概念図

2.2 検証

2.2.1 調査地設定

仮説を検証するため、前橋管林局大間々管林署足尾治山事業所管内三川地区久蔵沢流域に調査地を設定した。この斜面は、もともと一木一草なか、だが、現在は森林化しつつある。そこに三割線を設け、おおろね標高50mおきに10m×10mのプロットを設定した(図-2)。

第一・第二割線は昭和32~34年に復旧治山工事を施工し、昭和46年ぶらぶら補植工を行った。第三割線は昭和46年に航空葎突播工を施工し、数年おきに施肥工を行った。

2.2.2 調査内容と方法

各プロット内において以下の調査を行い、野帳に記録した。

- ① 草本の分布
- ② 木本の分布・樹齢・本数を全数調査した。樹齢については樹種・樹高・胸高直径のほば等しいものをグループ分けし、その代表として一本を地際より伐倒し、年輪を数えた。

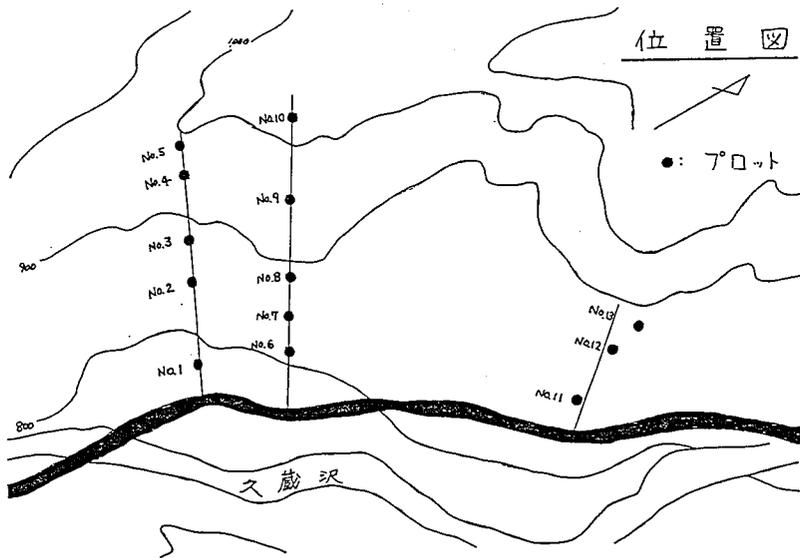


図-2 調査地概要

2.2.3 結果と考察

調査結果を表-1に示した。なお、樹齢は年輪判読の誤差等を考慮して5年ごちとした。

NO. 1 棟高 >80 m 方位 SE 優位種 ニロカシア 帯考 崖錐	NO. 2 棟高 840 m 方位 SE 優位種 ニロカシア 帯考 崖錐	NO. 3 棟高 870 m 方位 SE 優位種 クロマツ 帯考 斜面	NO. 4 棟高 9.50 m 方位 SE 優位種 クロマツ 帯考 斜面	NO. 5 棟高 960 m 方位 SE 優位種 クロマツ 帯考 斜面
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5	10			
~10				
~15	11			1
~20	8			
~25				1
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5	3			
~10				
~15				
~20	5			1
~25	2			
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5		2		
~10			4	3
~15			1	6
~20				4
~25				1
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5				
~10				45
~15				10
~20				21
~25				
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5				
~10				
~15			4	2
~20				6
~25				
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5	14		5	
~10				1
~15				
~20			2	2
~25			4	5
~30				5
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5				
~10				
~15				1
~20	8			5
~25	3			8
~30				2
30~				4
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5	18			
~10				2
~15				3
~20				1
~25				1
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5	2			
~10				16
~15				2
~20				14
~25				5
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5	4		5	19
~10				
~15				4
~20				3
~25				19
~30				
30~				
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5				
~10				0
~15				0
~20				0
~25				0
~30				0
30~				0
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5				0
~10				0
~15				0
~20				0
~25				0
~30				0
30~				0
(本)				
樹種	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
樹齢	ニロカシア	アキカミ	リョウブ	その他
~5				3
~10	6			4
~15				1
~20				
~25				
~30				
30~				

表-1 各プロットにおける樹種・樹齢別本数

- ① 人力施工地・航空機突播施工地を問わず、標高の低いプロットほど草本植生の定着が早かったことがわかる。仮説は検証されたと言える。桜井¹⁾は、松木沢左岸地帯標高860m-950mで調査を行い、ススキが一年に標高10m程度斜面を自然上昇していることと報告している。これは、草本植物についても同様の傾向があることを示している。
- ② 各プロットとも最終施工年度が昭和46年であることから、15年生以下のものはすべて自然侵入したものと予想される。第一・第二測線の結果より、人力施工箇所の標高850m以上では苗木の活着が不良であったと言える。但し、No.10よりアキグミは良好な活着をしていたことがわかる。第三測線の結果より、航空機突播施工地では屋根部分に突播時に活着したリョウブが見られるほかは、自然侵入によるものであると言える。但し、ススキ・クリービングレッドフェス²⁾等草本植物は突播と同時に定着していたことが観察されている。
- ③ ②は、人力施工では植生整筋工等が、航空機突播工においては養生シート・種子突播等による草本群落の導入が自然侵入を誘導するカギと白くすることを示している。これは、未施工地での自然侵入が見られないことから裏づけられる。
- ④ No.1, No.2, No.7よりニセアカシヤが優勢な群落では他樹種の実生の発生はほとんど見られな³⁾い。アキグミ・クロマツ等の優勢な群落ではこのよ³⁾うな傾向がない。
- ⑤ その斜面が安定し、自然侵入が始ま⁴⁾ったかどうかは、リョウブの侵入が指標となる。

3. おわりに

今回は各樹種の特徴についてはあまり言及せず、草本群落の成立過程を中心に一般論を述べた。今後は各樹種・草種について、その特徴についても検討を加える必要がある。また、山腹工程とその施工順序の有効な11ヶ年についても検討したい。

<引用文献>

1. 桜井淳一, 「足尾山地の荒廃裸地における植生の再侵入について」, 東京都立大学理学部卒業論文, P.15, 1982